

# 令和4年度和歌山県学習到達度調査(中学校)結果概要

## 1 調査の概要

(1) 調査日 令和4年4月19日(火)

(2) 調査の目的

県内の中学校における生徒の学力の定着状況をきめ細かく把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における生徒への学習指導の改善・充実に役立つ。

(3) 調査内容

調査を実施した学校、生徒、教科

公立の中学校第1・2・3学年、義務教育学校後期課程第1・2・3学年、特別支援学校中学部第1・2・3学年

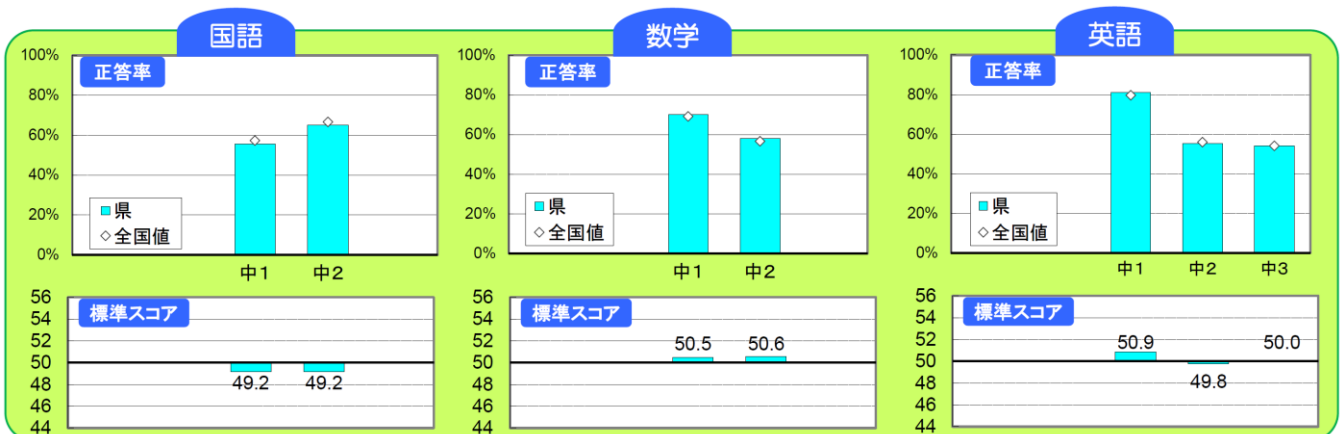
学年	学校数	生徒数	実施教科
中学校第1学年	116校	6,542人	国語 数学 英語
中学校第2学年	115校	6,591人	国語 数学 英語
中学校第3学年	119校	6,542人	英語*

\* 第3学年は全国学力・学習状況調査にて国語・数学・理科の調査を実施しているため、4月調査では、英語のみを実施した。

## 2 結果の概要

【標準スコア】 全国の平均正答率を50としたときの換算値

年度・月	国語			数学			英語		
	第1学年	第2学年	第3学年	第1学年	第2学年	第3学年	第1学年	第2学年	第3学年
R4 4月	49.2	49.2		50.5	50.6		50.9	49.8	50.0
R4 12月									



### 3 各教科の成果と課題(国語)

#### 第1学年

##### 【比較的できている問題】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
2(2) ①	小学校で学習した漢字を正しく書いている。	73.3	69.6	+3.7

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
4(3)	情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理している。	76.4	76.4	0.0

##### 【課題のある問題と改善のポイント】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
6(3)	互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。	30.6	32.5	-1.9

話し合いには、多様な目的があるため、参加者全員が目的をしっかりと理解しておくことが、効果的な話し合いのために必要となる。本問では、電子書籍と紙の本の特徴について話し合うことを目的としており、話し合いを通して、さまざまな視点から検討して、自分とは異なる意見も生かしながら、まとめていく。「黒沢さん」は、書店で本を買うという点に着目して、電子書籍と紙の本の特徴を整理しているの、書店で本を買うことについて発言したのは誰なのかを押さえればよい。

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
7	自分の考えを明確にして書いている。(自分の考えとその理由、体験)	29.5	32.3	-2.8

本問では、「AとBの意見に対する自分の考えとその理由を、自分の体験を具体的に入れて書くこと」が求められている。このように意見文に対する自分の考えを書く場面では、その立場をとった理由や根拠が適切であるかどうかを検討することが大切である。授業の中では、お互いの立場から意見を交換したり、挙げられた理由や根拠を一つずつ検討したりするなど、丁寧に指導する必要がある。

#### 第2学年

##### 【比較的できている問題】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
2(2) ③	小学校で学習した漢字を正しく書いている。	66.1	60.5	+5.6

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
4(2)	情報と情報との関係について理解し、必要な情報に着目して、内容を解釈している。	56.0	53.6	+2.4

##### 【課題のある問題と改善のポイント】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
4(1)	文章の内容について叙述を基に捉えている。	56.1	57.3	-1.2

説明的な文章については、段落ごとの要点を押さえ、それらのつながりを意識して読むように指導する必要がある。文章の内容を正確に読み取っているかを確認するためには、簡単な絵や図を描かせることが有効であり、そうすることで、自分の先入観や認識の誤りに気付けさせることができる。

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
6(3)	情報と情報との関係について理解し、自分の考えが明確になるように、話の構成を考えている。	38.3	39.6	-1.3

本問では、「岡田さん」の説明、それに対する「鈴木さん」の発言、【本の一部】の情報相互の関係を基に、話の構成を考える。まずは、「鈴木さん」の発言の中から「どのようなむち」で「どのようにたたくのか」というアドバイスを押さえ、次に、アドバイスに関する具体的な情報を【本の一部】から押さえる。押さえた複数の情報を一つにまとめて、条件に合わせて話すように書く条件作文では、提示された文章を適切に活用することで、解答がまとめやすくなることを指導しておきたい。

#### 第3学年 ※第3学年4月調査では、国語未実施

##### 【比較的できている問題】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
—		—	—	—

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
—		—	—	—

##### 【課題のある問題と改善のポイント】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
—		—	—	—

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
—		—	—	—

### 3 各教科の成果と課題(数学)

#### 第1学年

##### 【比較的できている問題】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
16(1)	比例の関係を、 $x$ と $y$ を使って式に表すことができる。	56.5	47.9	+8.6

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
18(2)	4種類の中から2種類の花を選ぶときの選び方が何通りあるかを求めることができる。	61.8	55.7	+6.1

##### 【課題のある問題と改善のポイント】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
11(2)	線対称な図形について、対称の軸が何本あるかを求めることができる。	54.4	59.0	-4.6

線対称については、まずその意味を十分に理解させる必要がある。いくつかの例を挙げて、点対称な図形と線対称な図形の特徴を比較しながら理解させるとよい。また、対称の軸については、いろいろな図形に実際に対称の軸をかき込ませることで、視覚的に捉えさせることが大切である。正多角形などは対称の軸が複数あるので、対称性の観点から、既習の図形を見直すことも有効である。

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
12	単位量あたりの値を求める式を選ぶことができる。	35.3	35.6	-0.3

誤答の主な原因としては、単位量あたりの大きさについて習熟していないことなどが考えられる。単位を意識して計算するように指導し、 $35(\text{人}) \div 70(\text{m}^2) = 0.5(\text{人}/\text{m}^2)$ から、 $1\text{m}^2$ あたりの生徒の人数が0.5人であることを理解させたい。また、1人当たりの教室の面積を求める計算について考えさせたり、人口密度などについて単位量あたりの大きさを考えさせたりすると、より理解が深まる。

#### 第2学年

##### 【比較的できている問題】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
4(1)	移項を必要としない1次方程式を解くことができる。	87.1	83.0	+4.1

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
15	おうぎ形の面積を求めることができる。	48.3	38.1	+10.2

##### 【課題のある問題と改善のポイント】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
10	比例の関係での、 $x$ 、 $y$ の値の変化の関係について理解している。	53.0	58.2	-5.2

誤答の原因として、比例の関係または比例定数の意味を理解していないことなどが考えられる。 $y=2x$ 、 $y=-2x$ 、 $y=1/2x$ 、 $y=-1/2x$ の $x$ と $y$ の値を表に整理し、 $x$ の値を2倍、3倍、4倍...にしたとき、 $y$ の値が何倍になるかを調べさせるとよい。その際、表に正しく整理できない生徒や、表の $y$ の値が $-1/2$ から $-1$ になることを、 $-1/2$ 倍になる、あるいは $-2$ 倍になると考えている生徒もいるので、一つ一つ確認しながら指導することが大切である。

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
20(2)	2つの分布の傾向を比べるために相対度数を用いる理由を理解している。	36.8	41.5	-4.7

誤答の主な原因としては、相対度数や相対度数の使い方について習熟していないことなどが考えられる。インターネットの利用時間が3時間未満と3時間以上の度数をそのまま比較することが正しいかどうかを考えさせる。相対度数とは、(その階級の度数)÷(度数の合計)で求めた値であり、ある階級の度数の全体に対する割合が分かることから、度数の合計が異なるデータを比較するときに度数の代わりに用いることを理解させたい。また、累積度数や累積相対度数などについても、その意味と、どのようなときに使うのかを確認するとよい。

#### 第3学年 ※第3学年4月調査では、数学未実施

##### 【比較的できている問題】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
—		—	—	—

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
—		—	—	—

##### 【課題のある問題と改善のポイント】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
—		—	—	—

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
—		—	—	—

### 3 各教科の成果と課題(英語)

#### 第1学年

##### 【比較的できている問題】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
3(3)	音声を聞き、活字体の小文字を正しく書いている。(j)	84.6	77.5	+7.1

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
4(1)	身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取り、その内容を理解している。(飼犬を表す表現)	85.3	80.2	+5.1

##### 【課題のある問題と改善のポイント】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
5(2)	日常生活に関する対話を聞き、目的や場面、状況などを推測している。(道案内)	75.5	77.7	-2.2

本問では、選択肢の絵が、それぞれどのような状況であるのかを予想してから、会話文を聞き取れるとよい。道案内のやりとりでは、場面や状況設定を変えながら、特有の表現を用いて相手に目的地までの行き方を伝える活動を繰り返し行う。また、活動の中では、身の回りにある様々な場所を表す語を扱うとよい。

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
14	例文を参考にしながら、身近な事柄について、必要な情報を書き写している。(3人称と職業)	79.3	79.5	-0.2

本問では、3人称のheとsheの意味を理解していないと、主語を選ぶことができない。日頃の授業の中で、教師が生徒の返答などを復唱するときに、He～. She～. を使うことにより、3人称に慣れ親しませることができる。英語を書き写す際には、例をすぐそばに置いて、アルファベットの一つ一つを確認しながら書き写すようにすると、ミスを減らすことができる。

#### 第2学年

##### 【比較的できている問題】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
6(1) ③	語形・語法を理解することができる。(be動詞were)	56.6	50.6	+6.0

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
10(1)	対話の流れに合った英文を書くことができる。(whichを使ってどちらかをたずねる)	59.7	55.1	+4.6

##### 【課題のある問題と改善のポイント】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
2(3)	対話の内容を聞き取り、適切に応答することができる。(彼はだれかとたずねられて)	47.5	52.4	-4.9

疑問詞については、日常の授業の中で、直接生徒とのQ&Aなどを通して指導することが望ましい。例えば、授業のさまざまな場面において、“When is your birthday?” “Where do you want to go?” “Who is this?” などと生徒に質問を投げかけることによって、何を尋ねられているのかを理解できるようにさせたい。また、これらの表現は、生徒どうしのペアワークでも使用できる。

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
7(2)	必要な情報を読み取ることができる。	56.7	61.0	-4.3

英語の文章を読み取る際に大切なこととして、多少分からない単語があっても、意味を推測しながら読み進めさせることが大切である。また、提示された目的・場面・状況の中から「必要な情報を読み取る」活動の他、「概要を捉える」、「要点を捉える」活動をバランスよく行うことで、目的に応じた読み取り方を身に付けさせる必要がある。

#### 第3学年

##### 【比較的できている問題】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
6(1) ②	語形・語法を理解することができる。(疑問詞when)	78.0	76.3	+1.7

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
9(4)	英文を正しい語順で書くことができる。(as～as…の文)	72.7	72.1	+0.6

##### 【課題のある問題と改善のポイント】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
8(2)	メールの内容から、適切な語句を選ぶことができる。	22.7	22.6	+0.1

長文を読む活動では、「何を読み取るのか」といった目的を提示し、その目的に応じて知りたいことや欲しい情報などの「必要な情報」を読み取る力を身に付けさせることが大切である。様々な英文を連続して読ませるなど、長い英文に慣れさせる必要がある。

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
11	部活動に対する自分の考えや意見について、まとまった内容で説明する文を書き表すことができる。(自分の考え)	41.8	40.5	+1.3

ジムの質問に対する答えを書く問題である。第2文目以降には、第1文で書いた、部活動に対する自分の考えや意見の理由や説明を書く力が求められる。教科書に出てくる基本的な表現を身に付けさせるとともに、日頃から「書く」活動を行い、まとまりのある英文を書くことに慣れさせることが大切である。また、無解答の生徒に対しては、よりきめ細かな対応が求められる。